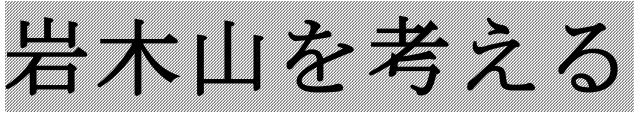


会報 第76号	Mt. Iwaki Conservation Association 	2018年9月27日発行 岩木山を考える会 会長 小堀英憲
----------------	--	---

「第39回東北自然保護の集い・白神」への参加を

東北自然保護の集いは1980年に山形県朝日村で第1回大会を開催し、途切れることなく各県持ち回りで開催されています。この間、多くの問題を克服しながら東北地方が抱えるさまざまな課題に取り組んできました。今年2018年第39回「東北自然保護の集い」は、世界自然遺産白神山地への入口の小村、西目屋村で開催されます。

白神山地は、「人の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布している」という理由で、1993年12月に屋久島と共に日本で初めて世界自然遺産に登録されました。

今年是世界遺産登録後25周年の節目を迎えます。自然保護のために、核心地域への立ち入りについての議論が続いています。

今回の大会では、白神の25年を振り返りながら白神全体を再評価する機会とします。議論を通じて、人間と自然との共存のあり方、身近な場所での生態系の維持のあり方などについて深めることができると考えております。

基調報告後、各県・各団体から報告をして頂き、議論と交流をします。どうか、お知り合いの方にお声をかけていただきながら、多くの皆様の参加をお願いいたします。

2018年7月「第39回東北自然保護の集い・白神」実行委員会

事務局団体 岩木山を考える会会長 小堀英憲

テーマ「人間と自然との共存のあり方考える」

期日：11月10日（土） 12：30～受付

13：30～ 講演 「世界遺産白神山地25年のこれまでとこれから」

講師：石川 幸男 氏 《弘前大学農学生命科学部

附属白神自然環境研究センター 教授（学術博士）》

基調報告 「国定公園岩木山麓における自然保護～弥生ネットの取り組み～」

報告者：阿部 東 《岩木山を考える会》

18：15～ 夕食・交流会

11月11日（日）

8：30～11：30 各県からの報告、全体討議、集いアピール採択

11：45 解散

参加費：	A	10日講演のみ	1000円
	B	全日程	12000円
	C	講演＋交流会	5000円

※申し込みは氏名、参加形態（A,B,Cいずれか）をお知らせください。

※交通費、参加費の一部に会から補助が出ます。

岩木山を考える会としての申込先 土岐修平 27-1773（FAX,TEL）

※申し込み締め切り 10月15日

岩木山弥生登山道整備問題について

8月8日、9日と、新聞社各紙が岩木山弥生登山道特別保護地区の樹木の無許可伐採についての記事を掲載しました。この記事を見て、会員の方から「岩木山を考える会は何をしてるんだ」とのお叱りの声が寄せられました。この問題については、当会も会員である岩木山環境保全協議会の加盟団体とも連絡を取る中で、当会として問題の所在の正確を期すことが必要と判断しました。そこで8月10日に小堀会長、阿部幹事、竹浪事務局長の3名が市庁舎内記者クラブに赴き、当会の見解を表明しました。11日に陸奥新報がその様子を記事にしましたが、詳細は伝えられませんでしたので、改めて、この場をお借りして当会の見解を掲載します。 （事務局長 竹浪 純）

岩木山弥生登山道特別保護地区の樹木無許可伐採記事に対する見解

岩木山を考える会

8月8日、9日新聞社各紙が、岩木山弥生登山道の特別保護地区の樹木の無許可伐採についての記事を掲載した。

記事の概略は、「弘前市が、木竹の伐採が原則禁止されている国定公園の特別保護地区に指定されている岩木山弥生登山道8合目付近のハイマツを、同登山道の迂回路とするため無断で刈り払いしていた」（東奥日報）というもので、「自然公園法などいくつかの法律に抵触している可能性もあり、国定公園管理者の県などが、市から事実確認を行っている。」（東奥日報）としている。

この問題については、登山者の安全の確保を目的に、県自然保護課や津軽森林管理署など監督機関をはじめ当会も会員である岩木山環境保全協議会で議論し、岩木山環境保全協議会の了解のもとに市が実施したという経過がある。しかし各紙の記事には、協議会の議論を配慮したものとなっておらず読者に誤解を与える恐れがあるものもある。問題の所在の正確を期すために当会の見解を表明する。

1. 岩木山環境保全協議会は、以下のメンバーで構成されている。

日赤岩木山パトロール隊、岩木山神社、(株)岩木山スカイライン、津軽森林管理署、県自然保

護課、岩木山を考える会、津軽百年の森づくり、岩木山観光協会、弘前勤労者山岳会、弘前市

2. 弥生登山道 8 合目からの赤倉登山道への迂回路の設置は、協議会会員（県自然保護課、津軽森林管理署、岩木山を考える会、岩木山観光協会、日赤岩木山パトロール隊、津軽百年の森、弘前勤労者山岳会、弘前市のメンバー）が実施した現地調査や、調査後の打ち合わせ会の中で繰り返し議論されてきたもので、登山者の安全確保のためには緊急性を要すると判断し、全体の合意の中で進められてきた行為である。しかしながら、弘前市による刈り払いの法的手続きに瑕疵があったために、「無断伐採」と広く報じられる結果となった。「無届け刈り払い」「無断伐採」などのセンセーショナルな見出しは、登山者の安全確保に向けた岩木山環境保全協議会の調整努力への配慮がない、いたずらに読者の批判をあおる不適切な表現と考える。（経過1参照）
3. 岩木山を考える会は、弥生登山道8合目から上は登山者から見ると眺望がすばらしい場所だと認識しており、出来ればこのまま使いたいと考えていた。しかし最近登山道の崩れが数か所見られ、若年者も含む一般登山者の通行にはふさわしくない状態になってきていた。登山道の補修は資材を使った大きなものにならざるを得ず、補修を繰り返すごとに特別保護地区の貴重な緑が裸地化する恐れを考慮し、今回、当会としては付け替え道路の取り付けに合意した。取り付け道路設置に至る市による手続きの瑕疵は遺憾ではあるが、今回の問題は、正当な手続きを踏めば何ら問題とされることがなかったどころか、安全な登山道が確保されてよかったとの評価につながったはずの事例である。このことが記事にはほとんど伝えられていない。
4. 迂回路の今後について各紙は、違法伐採だったことが発覚したという文脈の中で、「市は迂回路について今後使用せず」、「今回刈り払いをした所は立ち入りを禁止するよう、対策を講じる予定」などと報じている。立入禁止に至る経過は、手続き上の瑕疵はともかく、付近にある高山帯の貴重な湿地の保護の観点が大きい。（経過2参照）
5. 岩木山の登山道は、山に慣れた登山者だけではなく、小学生から高齢者までいろいろな方々が利用する機会がある。貴重な自然を保護するとともに誰もが安全な登山が出来るよう、必要な意見をこれからも発していきたい。

以上

<経過1>

2017/8/2(水) 岩木山環境保全協議会総会場で、2017年度の登山道整備の重点として弥生登山道を対象とすることを決めた。その上で協議会として8月30日(水)に現地調査を実施することにした。この会議には、津軽森林管理署、県自然保護課、日赤岩木山パトロール隊、岩木山を考える会、津軽百年の森などが出席した。

2017/8/30(水) 合同で、弥生登山道整備調査実施した。弘前市 3、刈り払い請負業者 1、県自

然保護課 1、津軽森林管理署 2、岩木山観光協会 1、津軽百年の森 1、岩木山を考える会 2、オブザーバーで弘前勤労者山岳会 1 の総勢 12 名が参加。①6 合目から上の笹の刈り払いの必要性、②8 合目から上は、8～9 合目の藪と崩れ、9 合目から上の崩れなどを考慮し、道路を付け替える方向で検討することにした。

2017/10/11(水) 弘前市庁舎で岩木山環境保全協議会弥生登山道整備箇所打ち合わせ会が開催された。都合で岩木山を考える会は欠席。後日当会が事務局(市観光政策課)に電話で問い合わせたところ、弥生登山道の整備の件では、安全面を考慮して 8 合目から迂回路を整備し、赤倉登山道に合流する方向が結論付けられたとのことだった。岩木山を考える会も了承した。出席者は、岩木山神社 1、岩木スカイライン 1、岩木山観光協会 1、津軽百年の森 1、県自然保護課 1、津軽森林管理署 1、オブザーバーとして弘前勤労者山岳会 1 であったとのこと。

2017/10/15 頃 市観光政策課より岩木山を考える会に、10/22 に刈り払いを実施したいとの電話連絡が入った。2018/8/8 に課に確認したところ、この日、観光政策課からは、日赤岩木山パトロール、岩木山を考える会、津軽百年の森、弘前勤労者山岳会の各窓口担当者に上記の旨を連絡したとのことである。

2017/10/22(日) 集合場所の弘前市役所岩木庁舎に岩木山を考える会(竹浪)が出かけた。集まったのは他に、弘前市、日赤岩木山パトロール、弘前勤労者山岳会、刈り払い業者だった。しかし、台風接近で荒天のため中止となった。

翌週 赤倉登山道への刈り払いを行った(岩木山を考える会に連絡が来なかったので不参加)。事務局に電話で問い合わせたところ、「勤労者山岳会が事前にリボンで印をつけておいたところから赤倉登山道に向けて業者が道を付けた」との説明があった(後日、刈り払った場所が確認した場所と異なっていることが判明した。また、つけられていたという印について、勤労者山岳会が印をつけた事実はないということも判明した。)。岩木山を考える会からは、刈り払いをするなら連絡をきちんとよこすよう注文を付けた。

<経過2>

2018年7月19日(木) 迂回路の現状と今後の使用については、この日に開催された岩木山環境保全協議会登山道整備打ち合わせ終了後に意見交換があった(参加者:市、県自然保護課、津軽森林管理署、岩木山スカイライン、岩木山を考える会、弘前勤労者山岳会)。その場で、岩木山を考える会は既に7月2日(月)に弥生登山道8合目現地を視察し、付け替え道路の現状を把握していたので、状況を以下のように報告し提言した。

- ・ 付け替え道路は、当初の予定とは違ったコースでつけられている。
- ・ 付け替え道路にはまだ笹の長い切り口がたくさん残っており、歩くには危険。根元から刈り払いなど整備が必要。標識の取り付けも必要である。

- ・ 現在の付け替え道路の位置は、貴重な湿原のすぐ横を通っており、しかも付け替え道路の途中は水がたまっており、湿原とつながっている可能性がある。まだ雪が完全には溶けていないので、雪が溶けた時点で改めて調査をし、検討することが必要だ。

この報告を受けて、湿原の保護の観点から、当面、ここは立入禁止の扱いにしよう、ということが参加者の中で合意された。今後迂回路を使うかどうかは、津軽百年の森による 8 合目から上の整備後に再度検討しよう、ということが参加者の合意となった。((注)参照)

(注)意見交換前に終了した岩木山環境保全協議会登山道整備打ち合わせの中で、弘前市がかかわる岩木山の各登山道の整備について、協議会の会員である民間団体に整備をお願いすること、引き受ける団体に対しては謝礼を支払うことが市より提案された。議論の結果、今年度は嶽・百沢登山道を日赤岩木山パトロール隊が、弥生登山道の 8 合目から上を津軽百年の森が整備を引き受けるということで確認された。

当会には市より赤倉登山道の整備の要請があった。しかし当会は、登山道の整備はあくまでも岩木山環境保全協議会として整備が必要な部分をチェックしたうえで、市が責任をもって行うべきだと、市の提案に対して反対の意思を表明し、登山道整備は引き受けなかった。また、弘前勤労者山岳会からも、どこまで整備すればいいのか、各団体によって違ってくるのではないかと意見が出された。

第 3 回岩木山講座「堰堤で渡り鳥と岩木山を見る」

堰堤からの観察会は数年前にも一度行いましたが、好評でぜひもう一度やって欲しいと言う要望が会員からあり企画しました。お天気が良ければ逆富士も見られるかもしれません。又この時期の冬鳥のガンやカモの他、猛禽類のオオワシやオジロワシも見られると思います。野鳥の会の方が、望遠鏡持参で応援に来てくれますのでぜひご参加ください。

日時 : 2018 年 11 月 18 日(日)10 時～12 時

集合場所: 堰堤駐車場

持ち物 : 雨具、防寒具(天候に合わせて)、双眼鏡ある方は持参してください。

参加費 : 100 円(保険料)

申込先 : 小堀英憲(TEL 090-6451-0793)

締切日 : 11 月 11 日

小堀 英憲 記



第 24 回 「私の岩木山」写真展を振り返って

この数年、当会監事として、写真展開催に携わって来ました。今回は作品の内容、特設コーナー等で心に残るものがありました。

2月9日(金)～11日(日)の3日間で、来場者は219名。作品の出展者18名。出品数72点。

会場入り口の森山さんの作品は作者の眼差しを感じる2点です。金枝さんは、住まいする地からの夕景を美しい色彩で季節の移ろいを伝えています。

岩木山登山等を通しての作品は4人からです。斉藤さんは、一般の登山者では歩けないコースを極めています。藤原さんはミチノクコザクラを訪ねて岩木山へ。竹浪さんは1月、厳冬期 中腹の山小屋泊で登頂。関心をひいていました。家永さんの「朝焼け」は、10月の白神岳からのもの。

尾坂さんは、弘前地域以外からの展望した貴重な作品を5点。会場に入って、突き当りの正面には、3人の方の大作を展示。小野さんは、三本柳からの「岩木山・春」、中別所からの「岩木山・秋」を。宮本さんは「大秋より岩木山を望む」を。栗形さんは残雪の岩木山を背景に「古民家」を。足を止めてどこからの景色だ?と、来場者の会話がはずんでいました。

佐藤さんは、地元新聞(当会の写真展を報じた)にも掲載されましたが「ど根性アスパラガス」など、身近な視点からの5作品。花田さんは、生活とカメラが切り離せないから生まれた作品と「花」を6点。阿部東さんは、自然への深い造詣、実践家としての思いを「痛恨の『ハ』の字」(長平拡張スキー場)に込めました。阿部玲子さんの「ひきにげされたー!」は岩木山の周回道路での野生動物の轢死体です。

植物について深めている工藤さんは、「花」6点を。中山さんは、「コウノトリ」5点。三和地区砂沢溜池に1993年から3シーズンにわたって飛来した1羽のコウノトリを鮮やかに表現。岩木山麓の自然の姿を知らせています。飛鳥さんはウグイスはじめ7点の作品を。同氏は、NHK弘前支局前の当会の写真展の立て看板を毎年作成しています。

最後になります。当会副会長、竹谷清光さんが今年1月11日、病気のため急逝されました。山仲間の花田一雄さんが「竹谷清光さんを偲ぶコーナー」を展示。笑顔の竹谷さん。大収穫のキノコが、輝いていました。竹谷さんのご家族、十三湖近くの脇本の実家から妹さんらも来場。鑑賞していただき、懇談できました。

当会のこの1年間の6回にわたる講座や活動についても展示。年に一度の写真展を機に、会員、市民の皆様と豊かな交流ができました。ありがとうございました。

藤原 裕貴子 記



「弥生スキー場跡地の市民観察会及び生物調査と毎木調査」

7月1日に実施された「跡地観察会」に同行しました。天候、季節とも良好で初夏の空気満々、森林のフィトンチット充分でした。昆虫の幼虫の形跡を探したり、樹木、枝葉の状態を見たり、沢越しの時は例のザリガニの捕獲と観察そして(必ず行う)再放流、周辺の植物の観察、また市職員と家族の方、お母さんと子供さん、当会の会員等々による会話、説明。貴重な植物、花等の説明、講師役の方々の熱心な説明、又シラカバや広葉樹、針葉樹、旧スキーリフトの鉄輪を喰って頑張って成長を続ける個性樹木、見晴らし台様の高地からの絶景等々有意義な行動でした。見晴らし台からは跡地のほぼ全景を見ることができて、跡地の形状、樹木の成長と移り変わりを一望することができます。定例ではありますが当日の行動は充実した一巡であったと思う次第です。



例ではありますが当日の行動は充実した一巡であったと思う次第です。

そして、昼食時は定例の？鍋汁をごちそうになりましたが、その味付け出来具合とも本当においしく絶品でした。昼食会に参加された市職員、親子の方々もそれぞれ満足されたと思います。

そして午後からは竹浪さん、阿部先生、金枝さん、そして自分の4名で生物調査を兼ねた毎木調査を実施しました。印象的だったのはやはりヤブ化、生い繁りが激しいことでした。又、第1エリア(NO4.ハンノキ?)の虫食いが激しく、この大木もはや寿命が尽きつつあるとのことでした。しかしまだ生きてはいるので完全死滅となったときに別の樹木に変えなければならないことになると思います。

毎木調査後は「宮様道路」から下段側に入って、池とその周辺の生物の観察・調査を行いました(が、小生の知識ではついていけない感で自分はウロウロするだけで終わった次第)。

弥生跡地についてはその広さ、感じる豊かさ、潜在性とも十分と思われ、ぜひ意義あるものになって欲しいと思う次第です。

齋藤 真人 記

第二回岩木山講座『ゴマシジミ観察会』に参加して

8月26日(日)10時ミズバショウ沼公園駐車場に集合した参加者は6名で、新聞の告知板を活用しての参加者はありませんでした。

天候はくもりで風弱く、時々霧雨が降る生憎の空模様でした。

こんな条件の中、生息地域に歩を進めましたが、ナガホノシロワレモコウの花穂もまだ若く、緑のま

まが多くあまり目立つことなく、飛び交うゴマシジミを想定していたのが見事に裏切られました。露をまとう草地を歩き回り葉裏に羽を休めていた一羽を見つけたときはホッとしました。その後、時々何かを求めて飛ぶゴマシジミを観察できたのは4羽でした。

今回の観察会での数の少なさが、気象条件によるものなのか、その他の要因があるのかが気懸かりです。10時50分終了、現地解散となりました。

土岐 修平 記

◎ゴマシジミ生息地の雑草・雑木の刈払い

2018年7月4日(火)9:00 小雨の中現地集合し、ゴマシジミの食草であるナガホノシロワレモコウの繁殖に支障となっている、背丈ほどのアシ・ススキそれに高く伸びた雑木の刈払いを、参加者7名がそれぞれ雑草刈・雑木撤去に分かれ作業を行いました。

雑草刈りは2台の草刈り機の導入により順調に作業は進みましたが、枝分かれした雑木の除去はのこぎりによる作業で小雨の中大変だったようです。11時頃には参加者全員怪我もなく作業を終えることができました。

私は、今回初めての作業参加でしたが、ゴマシジミの生息環境整備の一助になれば幸いです。また、ゴマシジミが多数飛翔する姿が見られるよう今後ともこの作業に参加したいと思っています。

金枝 壽孝 記

◎ゴマシジミ観察会のその後

ゴマシジミ観察会の後二度ほど現地に行きましたが、ゴマシジミの個体数(1~2頭目撃)の少なさに心配しています。おそらく今年も誰かに採集されたに違いありません。昨年と同じ頃長平で絶滅寸前のゴマシジミを見ました。今年も8月28日長平へ行きましたら、沼は埋められアスパラガスの畑になりゴマシジミは水田の畔に三匹見られました。来年は完全にゼロと思います。それでも三頭は確実にいましたがミズバショウ沼の1~2頭は心配です。やはり手続きよりも看板を立てた方が役に立った?と思いますがいかがでしょうか。それでもワレモコウの花穂にアリが訪れているのが(おそらく中に幼虫がいる)かなり多くみられていたのが希望です。見張りに行こうと思っていたのも気おくれが原因でわずか一回より行けなかった(8月14日)ことが悔やまれてなりません。

阿部 東 記

セミナー「弥生の森づくり」を考える 報告

6月30日(土)、「弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク」と「弘前市」の共催で上記セミナーが行われた。

報告 1 は、「弥生スキー場跡地の経過と現状」(弘前市公園緑地課)についてです。今後の方向性として、現在来場者は年間で 64,000 人。施設のリニューアルで誰もが何度も訪れたいくなる施設にしたい。そのために①豊かな自然環境②優れた眺望③豊富な湧水④これまでの実績を活かしたいと。

報告 2 は、「弥生スキー場跡地の自然について」当会の前会長 阿部東氏より。弥生跡地は、スキー場計画が中止になり21年目。現在どのような状態にあるかを報告。スキー場のために、すっかり削り取られた土地がどのように回復するかを記録してきた。植物相のうつり変わり(遷移という)が、この土地ならではの条件での観察ができた。(詳しくは、当日の資料を参照ください)当会は、今後も観察会を重ね、弥生跡地の生物の記録をしっかり残したい。岩木山の 1cm² の土地でも多く自然を守り、多様性の高い岩木山を後世に伝えて行きたい、と結んだ。



挨拶をする 神雅昭公園緑地課長

当日の、メイン講演は「人口減少時代に向き合える自然保護と公園づくりとは」(日本自然保護協会の高川晋一氏)です。里山の自然がピンチ！でも、自然を守るどころではない、という現状。地域の自然を理解するには時間をかける必要がある。時間をかけて地域の自然資源を見る解像度と、「守りたい・伝えたい」という気持ちを深めてほしい、と結んだ。

その後、質疑が行われた。セミナーを通じて、当会で取り組んできた、生物調査や観察会を、子どもたちを含めて、市民と共に続けることが大事なことだと感じた。

藤原 裕貴子 記

湯段温泉の源泉についての説明会

岩木山嶽地域に地火熱による発電の計画が持ち上がっている。現在三回目のボーリングが中部電力によって行われようとしているがその試掘により現在の嶽温泉周辺の温泉の源泉に何らかの影響があった場合は試掘を中止するという事になっている。影響があるかないかを確認するためには試掘が始まる前からの源泉についてしっかりとしたデータを残す必要がある。そのための湯段温泉源泉調査への立ち合いとして岩木山を考える会より斉藤真人幹事、竹浪事務局長と私が参加した。

7月5日、斉藤幹事の運転する車で湯段に向かう。湯段では竹浪事務局長と落ち合い、畑の中に小屋掛けしてある源泉へ歩く。汲み上げた温泉をパイプから側溝へ流しながら湧出量、温度、温泉成分などを測定して記入するのを確認した。

湯段温泉の泉源が畑の中の小さな小屋でそれも三か所あることは知らなかった。てっきり温泉の建物の中で湧いていると考えていたこともあって認識の浅さにも驚いた。湯段温泉は嶽温泉の湯と異なり、湯花のない透き通った湯だったことを改めて確認したが、湯段温泉の建物の中や近くから自然に湧いていると思っていた湯段温泉も、パイプで地下から汲み上げていることが判って少しがっかりした。

阿部 東 記

副会長竹谷清光さんを偲んで津軽半島へ

7月7日、幹事会有志4人で、1月に他界した当会副会長竹谷清光さんの故郷を訪れました。

生憎の天気でしたが、まずは写真展でお世話になった竹谷さんの妹宅に、御礼を申し上げるべく立ち寄らせていただきました。直ぐに引き上げるつもりが、昼食までご馳走になり、かえってご迷惑をおかけしてしまいました。自分は個人的に花観察などで、竹谷さんと一緒に何度かお邪魔した事がありますが、気さくで話好きな妹さんには生前の彼についていろいろなお話を聴かせていただきました。津軽半島界隈を歩き回った元気な頃を懐かしく思い出します。その後、竹谷さんが大好きな景観である竜泊ラインからの岩木山展望箇所を訪れましたが、ガスに覆われて望む事は出来ません。花観察で同行した頃に観た岩木山を思い出しながら、同じ道を走って帰路につきました。途中の巨大な風力発電建設工事が進んでいる姿を垣間見て、自然保護と開発の諸課題を再考させられながら、車は弘前に向かって走ります。

花田 一雄 記

岩木山エコプロジェクトに参加

毎年、春(初夏?)と秋に「岩木山観光協会」が主導して実施している「岩木山エコプロジェクト(投棄物ゴミの撤収作業)」が7月22日実施され自分も参加しました。当会からは阿部先生も参加していました。「コース班」は4つのコースで「嶽方面」が2コース「百沢」「嶽～百沢中間地点の粗大ごみ投棄現場」の4班に別れての行動となりました。自分は「粗大ごみ投棄現場」へ参加させていただきました。その現場はどうやら「野外パーティかキャンプ等での投棄物」の上に前例の積み重ね的に投棄が繰り返されて溜まったものと思われ、冷蔵庫、旧型テレビ、鉄パイプ、大型木工物、その他いろいろ...がありました。自分は切り傷の危険が高いガラス片は小片に至るまで一つ一つ手拾いするしかないと決め、収納袋に入れてまとめました。作業中、へびと遭遇した方もいました。

阿部先生の方は嶽方面のコースを歩きながらゴミ拾いを行ったようです。

集めた投棄物・ゴミは横を空き地にブルーシートを広げて積み重ね、そして当日の参加者全員が「ハイ、チーズ」の撮影となりました。

ここで自分は所用のため早退とさせて頂きましたがその他のほとんど全員はソバ等をごちそうになり、有意義な会話もあったようです。

当日の参加者は50～60名位と思われ、自分は「岩木山を少しでもよくしよう」という岩木山観光

協会そして小山氏はじめ諸兄の意気を感じてできるだけ毎回の参加を心掛けています次第です。

なお、秋の「エコプロ」は 10 月 14 日 (8:00 岩木山観光協会に集合)とのことですので、岩木山を少しでも良くしようと思われる方はぜひ参加されるとよいと思います。

また、9 月 15 日時点ではまだ未定ですが、おそらく 11 月 24、25 日は「あそべる」近辺で「いわき文化祭」が開催されると思いますので参加、見学されるのも有意義かと思います。(考える会の写真展とは少し異なるが豊富な枚数が集められている写真展もあります)。

齊藤 真人 記

「岩木山環境保全協議会」の動き

7 月 6 日 (金)環境保全協議会定時総会が開催され、当会から小堀、阿部が出席しました。事業報告、決算、事業計画、予算案の議事を終了後、当会からの提案(次期総会で詳細報告)が紹介され、市より以下の回答がありました。

- ・ 赤倉登山道の整備は再検討する。
- ・ 焼止・鳳鳴小屋の整備は予算次第で対応する。
- ・ 嶽口の入山ポストは、冬場に雪の中に埋もれてしまうので、ポストだけ外して付け替える予定。今年度中に実施する。
- ・ 入山ポストに投函された入山者のデータは以下の通り。
 - H29 年 1～12 月 590 通、592 名、トータル人数 1805 名
 - H30 年 1～6 月 140 通、141 名、トータル人数 320 名
- ・ これ以外の課題については、次回の会議に検討する。

7 月 19 日 (木)10 時より、市庁舎で「登山道整備打ち合わせ会」が開かれました。会から竹浪が出席。案件は弥生、百沢、嶽、大石赤倉登山道の整備等の対応についてでした。

市の提案は、概ね以下のようなものでした。

1. 市の管理している百沢、嶽、弥生、赤倉の各登山道の安全を最低限確保したい。
2. 今年の予算は 100 万。市が整備をすれば登山道一本分しか出来ない。そこで、協議会会員団体にそれぞれの登山道の最低限の安全管理を依頼したい。4 本の登山道整備に対する謝礼を渡したい。
3. 嶽・百沢→岩木山パトロール隊へ、弥生→津軽百年の森へ、赤倉→岩木山を考える会・勤労者山岳会へお願いしたい。

しかしこの提案では、与えられた謝礼で、実際どこまで安全が確保される整備が出来るのか判りません。土留めなど資材が必要でカネがかかる部分は放置することにもなりかねません。当会から出席していた竹浪は、「登山道の安全を保つために、これまで実施してきたように環境保全協議会の会員が共同で整備の必要な個所をチェックし、その部分を弘前市が責任をもって整備するべきだ」と主張しました。しかし、提案通り整備の委託案は了承され、嶽・百沢登山道、弥生登山道は、該当団体が有償で整備することになりました。赤倉登山道は、当会と同時に勤労者山岳会も消極的だったため、委託は行われませんでした。

この 7 月 19 日の「登山道整備打ち合わせ会」の中で、弥生登山道 8 合目から上の部分を廃


道にして「付け替え道路」を開くにあたり、市が手続きを踏んでいなかったことが問題となりました。このことについて観光政策課課長が、我々をはじめ県自然保護課や、林野庁の出席者に対して陳謝し、市として改めて津軽森林管理署に陳謝に行くことになりました。

この問題との関連で、協議会は当初 8 合目以上は廃道にすることにしましたが、改めて整備をすることになりました。付け替え道路の取り扱いについては、津軽百年の森が8合目から上を整備した段階で、必要かどうかを検討することにし、当面、立入禁止扱いとしました。

この問題が新聞で報道されたのは 8 月 9 日です。


竹浪 純 記

会員継続と平成 30 年度会費納入のお願い

 平素当会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。今年度も引き続き、会員継続とご協力をよろしくお願いいたします。

会費は前月号(75号)に同封の払い込み用紙または最寄りの幹事を介してお納めください。

幹事募集と幹事会への参加呼びかけ

 岩木山を考える会の企画・運営に参加してくださる方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか?日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなど、ざっくばらんにお聞かせください。桜大通り、市民参画センターで午後6時～。

※編集後記

りんごは収穫前にはある程度の風にやられるのは毎年の恒例行事となっています。まったく風に当たらない年はほぼないのではないのでしょうか?今年の台風20号では収穫前のつがるが2~3割落果しましたが、次の台風21号ではほぼ被害なしで済みました。風向きがやはり重要なようで我が園地は西風には弱い南風には強いらしいです。岩木山の北側にいるので岩木山に守られる形ですね。これから秋も深まっていくと北海道付近で猛烈に発達する爆弾低気圧が増えて収穫が遅ければ遅いほど風のリスクが高まります。この北風あるいは西風が弘前市の北部や鶴田町、五所川原に吹き荒れるので11月はこちらのエリアは時間との戦いとなります。今年も無事に収穫できますように!

小倉 慎吾 記

会報「岩木山を考える」第76号(2018年9月27日)発行/岩木山を考える会

会長 小堀 英憲 〒036-8131 青森県弘前市千年 4-12-15/電話 0172-87-1910

事務局長 竹浪 純/電話 070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会